

「総合診療専門医テキスト」(仮称)目次予定

※発行時には題目・掲載順番等変更になる事がございます。

章	分類	見出し
巻頭言	-	-
1) 総論		
	日本の医療の現況と将来	-
	海外の総合診療医の状況、提唱されている理念・理論	2-1) 海外の総合診療医の状況【家庭医療系】 2-2) 海外の総合診療医の状況【病院総合医系】
	日本で目指す総合診療医とは？	-
	都会で、そして地方で必要とされている総合診療機能とは？	4-1) 地域医療構想とデータ分析-データによる地域マネジメント 4-2) 地域のニーズにあった医療提供体制/地域分析について 4-3) 離島 4-4) 地方都市型の中小病院で必要とされる総合診療機能とは？ 4-5) 大都市
	在宅、診療所、小規模病院、中規模病院、そして大規模病院で必要とされている総合診療	5-1) 在宅・訪問 5-2) 診療所 5-3) 小-中規模病院 5-4) 大病院 (Hospitalist 30%>) 5-5) 大病院 (Hospitalist 30%<)
2) 専門医制度		
	専門医制度の経緯	-
	総合診療専門医制度の理念、使命、そしてアウトカム	-
	総合診療専門医専門医制度整備指針、プログラム整備基準、認定基準	-
	指導医要件、指導医講習会	-
	プログラム審査および研修中断・変更	-
	専門医機構	-
3) 学習理論と技法		
	学習に関する基本的理論	-
	成果基盤型学習	-
	自己主導型学習	-
	地域基盤型学習	-
	プロフェッショナルリズム	-
	省察（経験学習と反省的実践）	-
	シームレスな医師養成	-
	指導指針	-
	研修運営	-
4) 研修目標_到達目標		
	専門研修後の成果-7つの資質・能力	1-1) 包括的統合アプローチ 1-2) 一般的な健康問題に対する診療能力 1-3) 患者中心の医療・ケア 1-4) 連携重視のマネジメント 1-5) 地域包括ケアを含む地域志向アプローチ 1-6) 公益に資する職業規範 1-7) 多様な診療の場に対応する能力
	到達目標_i 専門知識/6領域	2-1) 地域住民が抱える健康問題には単に生物医学的問題のみではなく、患者自身の健康観や病いの経験が絡み合い、患者を取り巻く家族、地域社会、文化などの環境(コンテキスト)が関与していることを含めて全人的に理解し、患者、家族が豊かな人生を送れるように、コミュニケーションを重視した診療・ケアを提供する。 2-2) 総合診療の現場では、疾患のごく初期の未分化で多様な訴えに対する適切な臨床推論に基づく診断・治療から、複数の慢性疾患の管理や複雑な健康問題に対する対処、更には健康増進や予防医療まで、多様な健康問題に対する包括的なアプローチが求められる。そうした包括的なアプローチは断片的に提供されるのではなく、地域に対する医療機関としての継続性、更には診療の継続性に基づく患者・医師の信頼関係を通じて、一貫性をもった統合的な形で提供される。 2-3) 多様な健康問題に的確に対応するためには、地域の多職種との良好な連携体制の中での適切なリーダーシップの発揮に加えて、医療機関同士あるいは医療・介護サービス間での円滑な切れ目ない連携も欠かせない。更に、所属する医療機関内の良好な連携のとれた運営体制に貢献する必要がある。 2-4) 地域包括ケア推進の担い手として積極的な役割を果たしつつ、医療機関を受診していない人も含む全住民を対象とした保健・医療・介護・福祉事業への積極的な参画と同時に、地域ニーズに応じた優先度の高い健康関連問題の積極的な把握と体系的なアプローチを通じて、地域全体の健康向上に寄与する。 2-5) 総合診療専門医は日本の総合診療の現場が外来・救急・病棟・在宅と多様であることを踏まえて、各現場で多様な対応能力を発揮すると共に、ニーズの変化に対応して自ら学習・変容する能力が求められる。 2-6) 繰り返し必要となる知識を身につけ、臨床疫学的知見を基盤としながらも、常に重大ないし緊急な病態に注意した推論を実践する。
	到達目標_ii 専門技能_5領域	3-1) 外来・救急・病棟・在宅という多様な総合診療の現場で遭遇する一般的な症候及び疾患への評価及び治療に必要な身体診察及び検査・治療手技 3-2) 患者との円滑な対話と患者・医師の信頼関係の構築を土台として、患者中心の医療面接を行い、複雑な人間関係や環境の問題に対応するためのコミュニケーション技法 3-3) 診療情報の継続性を保ち、自己省察や学術的利用に耐えうるように、過不足なく適切な診療記録を記載し、他の医療・介護・福祉関連施設に紹介するときには、患者の診療情報を適切に診療情報提供書へ記載して速やかに情報提供することができる能力 3-4) 生涯学習のために、情報技術(information technology; IT)を適切に用いたり、地域ニーズに応じた技能の修練を行ったり、人的ネットワークを構築することができる能力 3-5) 診療所・中小病院において基本的な医療機器や人材などの管理ができ、スタッフとの協働において適切なリーダーシップの提供を通じてチームの力を最大限に発揮させる能力

章	分類	見出し
	到達目標_iii 学問的姿勢	4-1)常に標準以上の診療能力を維持し、さらに向上させるために、ワークライフバランスを保ちつつも、生涯にわたり自己研鑽を積む習慣を身につける。
	到達目標_iv 医師としての倫理性、社会性など	5-1)医師としての倫理観や説明責任はもちろんのこと、総合診療医としての専門性を自覚しながら日々の診療にあたることができる。
4) 研修目標_経験目標	i 経験すべき疾患・病態_症候 (59)	—
	i 経験すべき疾患・病態_疾患・病態 (67)	—
	ii 経験すべき診察・検査等_1. 身体診察	小児 高齢者 成人
	ii 経験すべき診察・検査等_2. 検査	—
	iii 経験すべき手術・処置等	—
	iii 経験すべき手術・処置等_1. 救急処置	—
	iii 経験すべき手術・処置等_2. 薬物治療	—
	iii 経験すべき手術・処置等_3. 治療手技・小手術 (24)	—
	iv 地域医療の経験_1. 医療介護連携	—
	iv 地域医療の経験_2. 地域包括ケア、保健・予防活動	—
	iv 地域医療の経験_3. 在宅医療	—
	v 学術活動_1. 教育	—
	v 学術活動_2. 研究	—
5) 研修方略	総論	—
	研修現場の設定-外来医療	—
	研修現場の設定-在宅医療	—
	研修現場の設定-病棟医療	—
	研修現場の設定-地域ケア	—
	研修現場の設定-総合診療研修 I	—
	研修現場の設定-総合診療研修 II	—
	研修現場の設定-内科研修	—
	研修現場の設定-小児科研修	—
	研修現場の設定-救急研修	—
	研修現場の設定-選択研修	—
	臨床現場を離れた学習 (Off the job training)	—
	教育・学術的活動	—
	研修とフィードバック	—
	自己学習	—
	教育指導体制・プロセス	—
6) 研修評価	総論	—
	評価目的-形成的評価	—
	評価目的-総括的評価-プログラム修了認定	—
	評価目的-総括的評価-多職種評価	—
	評価目的-総括的評価-専門医認定試験	—
	評価目的-総括的評価-書類審査、試験、+ α	—
	評価方法-JGOAL	—
	評価方法-Mini CEX	—
	評価方法-Case based discussion	—
	評価方法-ポートフォリオ	—
	総合診療版J-OSLER	—
7) キャリア形成・生涯学習	専攻医更新	—
	専門医共通講習情報	—
	サブスペシャリティ情報	—
	関連学会情報	—
	ダブルボート関連情報	—
	カリキュラム制とプログラム制	—
	生涯学習	—
8) 考慮すべき社会情勢制度	総合診療に従事する医師と社会との関わり	—
	総合診療に従事する医師の役割	産業医 健康スポーツ医 予防医療 学校医 乳幼児健診 感染症対策 医療的ケア児の成人期の対応 災害医療 医療倫理 医療安全・医療の質
8) 考慮すべき社会情勢制度	社会保障制度とは	—
	医療経済の基本的な考え方	—
	社会保険①:医療保険制度1	—
	社会保険①:医療保険制度2	—
	社会保険②:介護保険制度	—
	社会保険③:労災保険、年金保険、雇用保険	—
	地域包括ケアシステム	—
	地域共生社会	—
	SDH/ソーシャルキャピタル/社会的処方	15-13)患者会 15-14)地域の多様なNPO活動
	社会福祉①	高齢者関連
	社会福祉②	児童関連
	社会福祉③	障害者関連
	社会福祉④	生活困窮者関連
	公的扶助	生活保護(無料低額診療)
	外国人医療	在日外国人の医療
	多職種連携	18-1)総論 18-2)医師会 18-3-1)看護師の資格認定制度と特定行為研修制度 18-3-2)診療所看護師

章	分類	見出し
		18-3-3)訪問看護ステーション
		18-3-4) 保健師
		18-4)歯科医師・口腔ケア
		18-5)薬剤師総論
		18-5-1)病院薬剤師
		18-5-2)薬局薬剤師
		18-6)リハビリテーション概説
		18-6-1) プライマリケアとリハビリテーション
		18-6-2) 疾病モデルと障がいモデル
		18-6-3)リハビリテーション支援
		3-1. 理学療法
		3-2. 作業療法
		3-3. 言語聴覚療法
		3-4. 義肢装具
		3-5. 自助具
		3-6. 環境調整
		3-7. 教育・就労支援
		18-7)栄養士
		18-8)鍼灸など東洋医療(補完・代替医療を含む)
		18-9)居宅介護支援専門員
		18-10)社会福祉士
		18-11)医療ソーシャルワーカー
		18-12)精神科保健福祉士
		18-13)介護福祉士
9) 研修参考情報		
	専門プログラム例	—
	参考図書・ジャーナル	—
	参考サイト、e-learning、学習コンテンツ	—
	FQA	—
おわりに	—	—